広島安佐ロータリークラブ MONTHLY REPORT

＜本年度会長テーマ＞　『 みんなで創りみんなで味合うロータリーの愉悦（よろこび） 』

例会日／毎週木曜日　　例会場／リーガロイヤルホテル広島
会　長／青木　幹丸　　幹　事／山口　洋充

Vol.596

長神　憲一会員
（令和3年5月25日逝去　享年69才）

ロータリー歴
2004年 7月　入会
（職業分類　LPガス販売）
2017年10月　退会
2018年 7月　再入会
2006～2007年度　幹事
2008～2009年度　会長
2013～2014年度　幹事
2015～2016年度　会長

ベネファクター
第4回ﾏﾙﾁﾌﾟﾙ･ﾎﾟｰﾙ･ﾊﾘｽ･ﾌｪﾛｰ
第1回米山功労者

令和３年５月２５日、長神　憲一会員が６９年の生涯を終えられました。
長年にわたる当クラブへの貢献を讃え、感謝の意を込め、ご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

2021年6月3日（木）
例会取消

会長時間

長神憲一くんを懐かしむ

一度目の会長

2008～09（平成20～21）年度会長を務める。副会長は八條会員、幹事は岡村会員（現在退会）であった。この年度はクラブ創立10周年に当たる記念すべき年で、その年度に会長に就任するということは、通年にも増してその手腕と成果に期待が掛けられてのことである。この意味において、長神会員会長就任は極めて時宜を得た人選であったと言えよう。

期待に応え10周年記念事業の遂行、同記念祝賀会の挙行など、会員の先頭に立ってゴールに導いた指導力は特筆すべきものと思う。会長賞を始め頂ける賞はなんでも獲得に動こうとする姿勢にはただ脱帽するのみ。

印象深いのは、会長時間のスピーチである。長神会員は「まちの電気屋さん」としてパナソニックの製品を扱っていたが、広島工業大学を卒業後、松下電器の創始者、松下幸之助翁の商道研修所でその商いの哲学を学んでいる。毎週、その語録から題材を求め原稿をしたためて粛々と登壇をこなした。ロータリーの4つのテストに通じる内容もあり、とても興味深く拝聴したものだ。

長神会員の厳しいというか、良い意味で頑固なところを垣間見たエピソードがある。在広13ロータリークラブでは毎年、各ロータリーの名称と例会日を欄外に記したロータリーカレンダーを作っている。たまたまその年度、製作担当クラブの校正ミスから、広島安佐ロータリークラブだけが記載漏れになってしまった。なにか事務局を通して謝罪のメッセージだけは届いてきたのだが、長神会長は、「責任ある立場の人間が詫びを入れに来るのが社会の常識」と譲らず、結局当該クラブの幹事さんが断りを言いにわがクラブの例会に来られたという「事件」があった。

二度目の会長

2015～16（平成27～28）年度、請われて二度目の会長に就任。再びとなると、ロータリアンとしての練度が上がり知識も増える。会員数が少ないがためにクラブ会計の逼迫を常に憂い、会員増強を特に訴えていた。それは今も変わらないわがクラブの課題である。

クラブに溜まったロータリー財団寄付金の認証ポイントを各会員に振り分けて、マルチプル・ポールハリス・フェローの人数を増やしたことも画期的と言えば画期的だった。ガバナーの指導に忠実たらんとしたその姿勢のなせる業とも思うが、地区の表彰で該当する項目があれば

敢然と取得に動くエネルギーも常にクラブの領域を超え地区へ、世界へと向けられていた。

誠実な人柄は時に小さな「事件」を起こす。2013年の規定審議会で採択された出席規定に関する文言の解釈について、である。この件については、公式訪問時、東ガバナーに直接尋ねる長神会長を覚えている会員さんもあるかも知れない。「なにか難しそうなことを言うとってじゃ」。つまり、こうだ。出席規定に、少なくても半期の例会の50%へ出席するか、クラブの主導する奉仕活動に12時間参加していることを含めるとある。ここで長神会長は考えた。「奉仕活動に1時間参加することは、例会出席何コマ分に相当するのだろうか？」と。それが明確になれば、その解釈を積極的に利用して通常の会員やクラブの出席率を高めていくことが出来るのではないかということである。

ガバナー事務所から回答を得られないものだから、長神会長は久笠ガバナー補佐（城南RC現在退会）にも判断を仰いだようだ。結論として、出席規定における会員身分の保全をどこで担保するかということに尽きる。半期の50%か奉仕12時間というのは会員身分を終結させないための最終的なセーフティネットである。セーフティネットというのはそもそもそれが張ってあるから進んで身を投じようというものではなく、むしろそれを使わなくて済むよう何とか努力しようとするものにとってこそ大きな意味がある。自らの意志で会費を払い例会に出席し奉仕に汗を流す、これをロータリアンの本分とするならば、姑息な手段での出席補填などもとより必要なく、それが通常罷り通れば論理的に本末転倒ということになる。従って奉仕1時間の例会日数への換算など本来考える必要はない。そう私は認識する。ただ長神会長にしてみれば、使う使わないにかかわらず実際数字が上がっているのだからその根拠が知りたいということだったのかもしれない。

車のこと

かなり車好きだった。クラブ入会時には知る人ぞ知る名車（珍車）スバルのアルシオーネに乗っていた。時々社用のマツダのプレマシーも見かけたが、ある時突然BMW318iクーペに乗って現れた。その理由の一つには、どうも最初の会長時、幹事を頼んだ岡村会員（バルコム）への忖度があってのことらしい。もちろんその財力あってのことだが、つくづく配慮の人だったのだろうと思う。

ある意味とても信心深いのだが、地元の氏神様を始め白島から三滝まで七ケ所の神社に初詣をする長神会員は、車のフロントグリルに今では全くと言っていいほど見かけなくなった正月飾りを毎年取り付けていた。「ああ、今年も付いとるわ」。いつもほっこりする正月風景の一つだった。

ゴルフのこと

こちらもかなり好きだった。佐伯カントリークラブに始まり、エディオンの久保さんが実質オーナーだった頃のリージャス・クレストゴルフクラブに入会し、最後は広島カンツリークラブの会員となった。会社が休みの日曜日以外はゴルフをしない人で、日にちが合わずたまにしか同伴出来なかったが、旧知の間柄の人ばかりでなく初対面の人との間も和ませる心配りのゴルファーであった。

絵のこと

しばらく退会期間中に、高山さんという女流画家に絵を習っていた。「なかなかデッサンが上手くいかない」とこぼしながらも満更ではない様子で、これも好きこそものの上手なれであったのだろう。ただ私としたら作品を観ていないためなんとも評価はしかねる。

ロータリーをともに活動する中で印象に残った長神会員の姿を思いつくままに書いてみた。時間が経てば経つほど記憶の中で浄化され新鮮味が失われることを恐れて、出来るだけ早く書き上げることにだけ努めた。従って、こういったものに有りがちな美辞麗句を並び立てたものとは一線を画したという自負はある。

かつてクラブ創立20周年の折に、クラブ創立時から在籍した幾人かの会員さんたちの活動を記録に留めた。次回またそういう機会があったならば、当然取り上げられるべき会員の一人として長神会員の存在を失ったことは残念でならない。

たまたま会長年度に突き付けられた別れという厳しい現実に、今更ながら人世無常を痛感する。いささか遅きに失した感もあるが、長神会員の存在をクラブ史に残すために一文をしたためた。その微意を汲み取って貰えたならば有難く思う。

2021年6月17日(木)
3階　「安芸の間」

会長時間

皆さんこんにちは。三週間ぶりの例会となります。緊急事態宣言のもと、他クラブも軒並み例会中止の処置をとっておられる中、敢えてお集まり願ったわけは、わがクラブも次年度に向け、Zoomによるリモート例会のノウハウを学び、当分続くであろうウイズ・コロナの期間に備えようと目論んだために他なりません。

今日は、株式会社インタークラウド代表取締役樹野敏之様と取締役中村様をお迎えし、後ほど解説とデモンストレーションをしていただきます。会員の中からは、今日欠席の横手会員が事務所から参加してくださいます。

もともとこの話の発端は、5月25日に亡くなられた長神会員に対して、休会自宅療養中でも例会の画像と音声を送り届けたいと、その方策を探っていたところにありました。樹野様にご相談に乗っていただきましたところ、そうした願いにいたく共感してくださり、ロータリーの友情を込めてこの度のZoom例会システムを提示していただいたわけです。クラブでもフォーラムを開催し会員の皆さんにご意見を伺う中で、一応機材を含めた導入を決定いたしました。

ただ残念なのは、それを使う前に長神会員が逝去されたことです。願わくば、今後ウイズ・コロナの時代に、集まろうにも集まれない時の例会の代替手段として、わがクラブがそれをうまく利用していけるならば、きっかけ作りにもなった長神会員の存在に間接的にでも報いることが出来るように思います。

今日は、先日中止となった防府での地区大会で披露される予定であった、前年度（道垣内会長）ロータリー財団寄付人頭割地区第一位、米山奨学金寄付人頭割地区第二位の表彰状が届いております。おめでとうございました。今年度はこのご時世で、そのような栄誉を送り届けることは叶いませんが、折角導入したこうしたシステムを活用して、有意義なクラブ運営が行われることを切に念願しております。

こうした口上を述べる機会も今例会が最終となります。至らぬ話に終始した感がありますが、毎回ご清聴ありがとうございました。

2019-20年度R財団年次基金人頭額賞1位
2019-20年度米山個人平均寄付額2位

Rotary

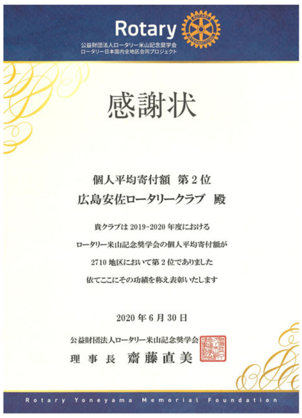
表彰状

ロータリー財団年次基金人頭額賞
第1位
広島安佐ロータリークラブ 殿

貴クラブは2019-20 年度においてロータリー財団に深い理解を示され頭書の通り優秀な成績をあげられました
よってその功績を称え表彰いたします

2020年6月30日

国際ロータリー第2710地区
2019-20年度ガバナー　畫田　眞三


Rotary
公益財団法人ロータリー米山記念奨学会
ロータリー日本国内全地区合同プロジェクト

感謝状

個人平均寄付額 第2位
広島安佐ロータリークラブ 殿

貴クラブは2019-2020年度における
ロータリー米山記念奨学会の個人平均寄付額が
2710地区において第2位でありました
依てここにその功績を称え表彰いたします

2020年6月30日

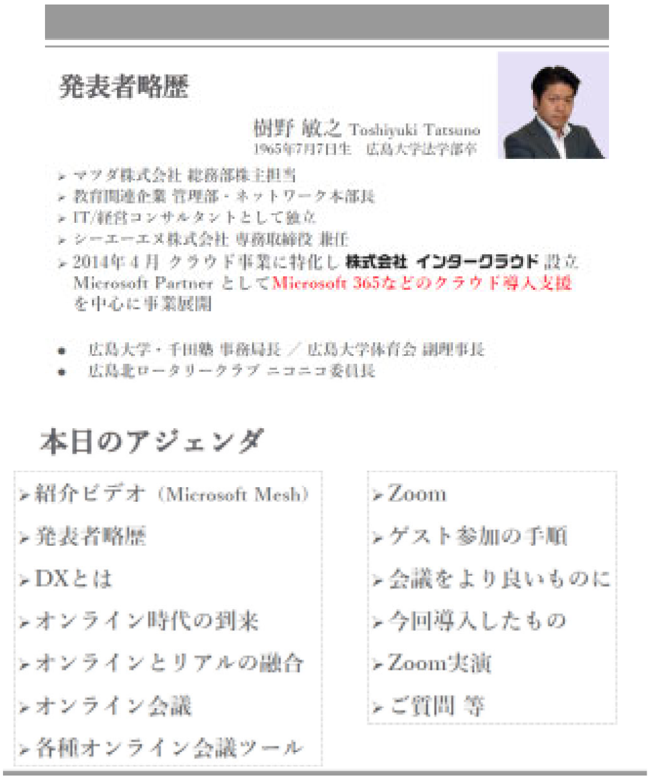
公益財団法人ロータリー米山記念奨学会
理事長　齋藤直美

Rotary Yoneyama Memorial Foundation

「ZOOM利用の
デモンストレーション」

（株）インタークラウド　代表取締役社長
樹野　敏之　様

皆さんこんにちは！
株式会社インタークラウド／広島北ロータリークラブの樹野です。
本日は貴重なお時間を頂きありがとうございます。
この度のオンライン会議導入のお話に大変感銘を受けて、ご支援させて頂いております。
なお、弊社取締役中村もZoomの説明ため参加しております。
本日はよろしくお願い致します。



Microsoft PartnerなのでMicrosoft Meshという最新のプラットフォームの紹介ビデオです。
これから流れるのは未来ではありません。
ビデオ：Introducing Microsoft Mesh（上映中に状況を随時説明）
このビデオは今日のテーマに関係しています。
今回は会議をオンライン化するお話し。
オンラインになっていくことにより何が起きていくか、ということを説明しているビデオでした。

最近よく聞くDX。
次年度ガバナーの方針にも「DX」という言葉。
DX＝デジタルトランスフォーメーション
「進化したデジタル技術を浸透させることで
人々の生活をより良いものへと変革すること」
という意味です。
なぜオンラインの時代か
・理由その１
コロナ：100年に一度の疫病
このような時には 産業構造の改革が必ず起きます。
今回何が起きるか＝強烈なDX（デジタルトランスフォーメーション）
・理由その２
2020年　世界はリセットされた／25年ぶりのリセット
1995年　インターネット登場によるリセット
　電話・FAX・手紙
　　→　メール・チャット・SNS
2020年　新型コロナウイルスによるリセット
　移動・対面
　　→　オンライン
・旧もなくなってはいないが主流が変わった。
・ワクチンが行き渡ってもオンラインはなくならない。

オンラインとリアルの融合

オンライン＋リアル　→さらに強い絆
写真は私の同期オンライン飲み会です。
世界各国にいる友達が集まり、オンラインの次のリアルも生まれました。
今までリアルに参加しなかった人がオンライン参加をきっかけに！

デメリットではなく融合されるメリットに目を向けることが重要。
仕方なくオンライン、ではありません。

オンライン会議に必要なもの
・インターネット回線
・カメラ・マイク・スピーカー（イヤフォン）
・パソコン
＜追記＞スマートフォン：上記すべてを備えている

・オンライン会議ツール（サービス）
ZOOM
Microsoft Teams
Microsoft Skype
Google Meet　他
会議の機能に関しては大差ない。
会議の相手方全員と共通のツールを使用する必要があります。

zoom

ホスト（主催者）or ゲストの違い
有料 or 無料ライセンスの違い
無料ライセンスでの会議は40分まで。

より良い会議のために
話者以外はミュートに！
相づちは少し大げさに！

6月17日（木）　第 997　回

「ZOOM利用の
　　　　デモンストレーション」
（株）インタークラウド　代表取締役社長
樹野　敏之　様

幹事報告

1．BOX配布物
・ガバナー月信とロータリーの友
・5月分の個人別出席一覧
・6月定例理事役員会議事録、6月被選理事役員会議事録
・7/8（木）臨時総会のご案内
2．例会変更
・広島廿日市RC
「創立２６周年記念および最終夜間例会」
　と　き：6月25日（金）18:00～
　　　　※6月28日（月）の変更
　ところ：広島サンプラザ２階
3．休会（例会取消）
　すでに文書をメールにて配信しておりますので、ご確認下さい。
　※全てメークアップ受付はございません。
4．お知らせ
・来週6月24日の例会は最終夜間例会となっております。18時30分より「むさし　土橋店」にて行いますので、お間違えのないようお願い致します。時間の変更があるかも知れませんので後日ご連絡いたします。

出席報告　第995回　4月22日

会員数	21名	出席率	95%
出席	17名	ご来賓	0名
欠席	4名	ご来客	0名
メーキャップ	2名	ゲスト	0名

当クラブは、月に一度ははは100万ドルの食事としております。
今月は久しぶりのおむすび弁当です。

ニコニコ箱

￥16,000　累計￥636,340

会員記念日（6月）

☆結婚記念日おめでとうございます
・道垣内　文夫会員(H1.6.11)
・清家　俊一会員(S56.6.14)
・谷　勝美委員(S48.6.15)

☆パートナー誕生日おめでとうございます
・清家　俊一会員　（美保：23日）

☆青木　幹丸会員
・樹野様、本日はお出かけにくいところをようこそお越し下さいました。卓話宜しくお願い致します。

広島安佐ロータリークラブ 2020-21年度　理事・委員長退任挨拶

青木　幹丸会員（会長）

今年度「みんなで創りみんなで味合うロータリーの愉悦」の会長テーマを掲げ、7月からクラブ協議会、ガバナー公式訪問と順調なスタートを切ることが出来ました。

ところがその後コロナ禍に翻弄され、密が想定される奉仕活動や家族会が延期・中止の止む無きに至ったことは残念でなりません。

そうした中、内向きではありますが例会の維持には務めて力を注ぎました。

退会会員の近況を知るため卓話講師に招いたり、フォーラムでクラブの問題点、将来像を語り合ったりして、こんなご時世だからこそ却ってクラブの結束は強まった感があります。

不肖私も、及ばずながら会長時間を工夫して、会員各位に生のメッセージを届けることに努めました。

顧みれば5月に、休会闘病中の長神会員が亡くなられたことは痛恨の極みでした。

クラブには大きな損失となりましたが、そのダメージを会員相互で補い合いながらクラブを次年度にお渡し出来ることは、これ偏に会員各位と事務局のお力添えの賜物であり感謝に堪えません。

今後は一会員として、微力ながら会務の一翼を担うことをお誓いして退任のご挨拶といたします。

有難うございました。

道垣内　文夫会員（会長エレクト・副会長・クラブ管理運営理事・財団推進担当長（代理））

安佐ロータリークラブの副会長並びに会長エレクトを無事終えることが出来ました。今年度の副会長としましてはコロナウィルス感染防止対策で何度も例会が中止になり自己評価においても特段良否の無い一年間でありました。会長エレクトとしての活動も同様でRLIは2回ともzoom配信を拝聴するのみ、杉川ガバナーを囲む会はリアルにて参加させていただきましたが、その他は記憶になかろうかと。

財団理事といたしましては例年通り地区補助金を活用し山彦園に寄贈する申請書作成及び申請し、無事に承認が得られ次年度も寄付が出来ることとなりました。

最後に2021－2022年度は会長の役となっております。次年度は予算も潤沢ではございませんのでいろいろとご不憫をおかけするやもしれませんが１年間、ご理解ご協力の程をお願いしまして私の退任挨拶とさせていただきます。

1年間ありがとうございました。

奥芝　隆会員（会員増強理事）

このコロナ禍の中でのスタートを迎えましたが、当初なんとかクラブ会員増強に寄与することを思っていたのですが、私事で申し訳ないのですが、会社もより厳しさが増し、なかなかロータリー活動に手が回らず、皆様にご迷惑をおかけいたしました。お詫び申し上げます。

中村　富子会員（広報・会報理事）

2020-21年度 広報・会報理事を務めさせていただきました中村富子です。

今年度は広報・会報理事として2年目となり、昨年度より少しは慣れたかな…と甘い自己評価をしています。

広報・会報理事の主な活動は、「公共イメージと認知度の向上」で、会員に必要なロータリー情報・RI情報等を月報として提供することです。

当委員会の目的は、会員の出席への関心を刺激して出席率を高め、例会報告・クラブ行事等の内容を毎週記録として残すことが主ですが、昨年度に続きコロナ禍の中、例会の休会、家族会はじめクラブ行事の中止など、例会以外の活動はほぼできない状況でした。

そんな中でも、私たちの広島安佐ロータリークラブは他クラブよりも多く例会を開催できたこともあり、広報・会報委員として、最低限の活動報告ができました。

これもひとえに、皆さんのコロナに対する万全の対策と、例会開催への強い思いから実現できたものと感謝申し上げます。

就任当初の目標では、広島安佐ロータリークラブの課題である「会員増強」に関して、当委員会としてもできることを考え行動することを挙げていましたが、時勢柄アウトプットできる情報があまりなく、目標に及ばなかったことは反省点となります。

私がこの2年間、広報・会報理事を努めさせていただいて良かったと思うことは、例会での会長はじめ卓話者の方々のお話を真剣に聞くようになったことです。始めの内は任務のためという感もありましたが、それが板に付くと、皆さんのお話がとても興味深くためになることが多いので、このことを少しでも多くアウトプットしたいという思いが強くなりました。この思いはこれからも持ち続け、ロータリークラブの活動を個人的にも広報して行きたいと思います。

最後に、私の活動をフォローしてくださった広報・会報委員の皆さん、そして、いつも陰ながら支えてくださった事務局の三戸さんには感謝しかありません。ありがとうございました。

谷　勝美会員（奉仕理事・クラブ研修リーダー長）

昨年からコロナ禍の中で従来から行ってきた奉仕活動が残念ながら縮小となりました。4月の比治山清掃、1月の全国男子駅伝広島チーム応援等が代表例です。そうした状況下で、広島市こども療育センター山彦園への難聴者用に開発されたスピーカーとマイク、そして大型テレビを贈らせていただきましたが、大変喜んでいただき、11月12日には柳井園長さんの卓話もいただきました。

10月22日には職場訪問ということで青木会長の専教寺さんを安佐RCとして2000年4月から20年ぶりに訪問させていただきましたが、奥様からお孫さんまでのご一家に温かく迎えていただき、青木会長は18代目の住職ということですが、文禄3年（1594年）から今日に至る430年近くになる歴史の中での多くの参考になる話を聞かせていただきました。

今年に入って2月17日に恒例となっておりますがん予防講演会・崇徳高校1年生を対象に「がん予防、感染症によるがんを知ろう」というテーマで広島中央RC会員・広島大学名誉教授　小林正夫先生に話をしていただきました。熱心に聴講してもらい、大変参考になったと喜んでくれていました。

コロナ禍で大変な一年でしたが、各担当長さんのご尽力と会員各位のご理解とご協力のお陰で年度を終えることが出来ました。有難うございました。感謝です。

山口　洋充会員（幹事）

今期、幹事を努めさせて頂きました山口洋充でございます。

この度、無事1年の任期を終え、こうして退任のご挨拶が出来ることに感謝しています。とは申しましても１年の間には何かと至らぬ点も多かったと思いますし、皆様のご協力なしにはこの大役をまっとう出来たとは思えません。

改めて皆様に御礼を申し上げたいと思います。

最後に、新年度の皆様のご活躍、そして広島安佐ロータリーの更なる発展を祈念しまして退任の挨拶と換えさせて頂きます。

横手　裕康会員（副幹事・会計理事・親睦委員会長）

2020年度副幹事、会計理事、親睦委員長を務めさせていただきました。

今年はやはり新型コロナウィルス感染症の影響により、多くの事業が取りやめになり、計画どおりに活動ができなかった１年でした。

来年度はコロナの影響も終息することを願いつつ、来年度担当となる職を全うさせていただきます。

湯本　隼士会員（副幹事・米山記念奨学担当長）

早いもので副幹事の要職に仰せつかり一年が経過しようとしています。

ロータリアン2年目で、まだまだ経験未熟な若造に、このような貴重な機会を頂きました会員の皆様に、あらためて御礼申し上げます。

2020年はコロナウィルスの感染拡大により、安佐ロータリークラブの活動も、例年とは異なる形での対応を強いられることが色々とありました。

新しく会員を迎えながらも、懇親会などを適時開催することができず、他クラブとのイベントも軒並みキャンセルとなってしまったのは残念ではありますが、そのような環境下においても、時機をしっかりと伺い、少ない回数ではありましたが、例会で会員の皆様との交流継続できたことは非常にうれしく思います。

副幹事として、横手会員とともに例会の司会も担当させて頂く中で、青木会長にも間の取り方などをフォロー頂き、進行につきましても少し腕を上げることができたかなと感じております。あまり、貢献できる機会は多くありませんでしたが、来年度も引き続き副幹事として更に

クラブの運営にお役に立てるよう、精進したいと思います。
 皆さま、引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

岡本　忠文会員（S.A.A.理事・インターアクト委員会長）

本年度理事SAAを拝命致しました。
今年度、ガバナーは信条「不易流行　楽しくなくてはロータリーではない」に基づき基本目的に「クラブビジョン」を掲げられ、革新的なクラブモデルを創造していく事を積極的に推進するという想いを語られた。当クラブにも少しでもそのエキスを味わって頂きたく年度当初、SAAの行動規範である、例会をはじめすべての会議(国際大会・国際協議会・地区大会・地区協議会など)が、楽しく、秩序正しく運営されるよう、常に心を配り、気品と風紀を守り、会合がその使命を発揮できるように設営、監督する事に則りクラブ運営をしていきたいと考えておりました。その為にも会長、幹事が推進する方針、ビジョンに基づきクラブ運営を楽しく円滑に進めていかなければならないと思っておりましたが、長引くコロナ禍の下、例会開催も儘ならずクラブ運営による革新性には一歩たりとも足を踏み入れる事ができませんでした。
　この環境下、特にクラブの柔軟性と主体性が求められ、青木会長も「みんなで創り、みんなで味わうロータリーの愉悦」を踏襲した“クラブ運営”に大変苦慮されたと思います。
 SAAはご案内の様に“SERGENT-AT-ARMS”の略ですから本来は護衛官の役割からスタートしておりますが、今年度は役割を何も役立てる事ができなかったのが実情です。
 一年間、苦しさと悔しさだけが残った結果となってしまった事のみしかご報告出来なかったのが残念で仕方ありません。
 もう一つの顔が「インターアクト委員長」です。崇徳学園とは中長期計画での「がん予防推進」の一環として昨年に引き続き「がん予防講話会」を高等学校1年生全員対象に行ったのですが、サテライト方式と限られたロータリーメンバーしか参加できませんでした。
 また、二年生対象の「職業人による懇話会」も中止を余儀なくされました。
 インターアクトクラブもロータリークラブ運営と同様にコロナ禍パンデミックの影響をダイレクトに受け、様々なRI関連の行事が中止になっており、インターナショナルな活動が出来ない大変残念な状況に成ってしまいました。
 然し乍ら現在部員も15名となり男女共学校への変貌も含め、これからの部員増強も多様性が具現化していくと思います。然しながら、社会環境を充分捉えたアクションプランが構築される事がRI含めた大きな課題と成ってきた事を真剣に考える時期がインターアクトクラブに引いてはロータリークラブにも到来したと思っております。大きなパラダイムシフトがやってきた事を認識し、退任の挨拶とさせて頂きます。

八條　範彦会員（職業奉仕担当長・プログラム委員長）

 今年度は、コロナ禍での活動になり、例会の中止もあり、皆さん方大変だったと思います。個人的には人との接触を避けるよう指示が出たこともあり、欠席がちで、職業奉仕及びプログラム委員会の役割が果たせず、青木会長をはじめ、皆さん方に迷惑をおかけし、申し訳なく思っております。
職場訪問例会では、青木会長のご配慮で専教寺への訪問例会となり、担当としては非常に助かりました。また、プログラムに於いても、皆さん方にお世話になりました。サッカースタジアム関連の卓話をお願いしておりましたが中止となりました。この一年間は、例会も２９回と少なく、ロータリーの活動に限らず、地域の活動等全てが中止、自粛となり、生活スタイルが大きく変化しました。次年度こそ、本来の活動に戻ることが出来ればと期待したいと思います。
 最後に、長神会員のご冥福をお祈りいたします。

松岡　與吉会員（社会奉仕担当長・監査委員長）

　この年度社会奉仕担当という大役を仰せつかった松岡與吉でありますが、コロナ禍により、多くの行事が中止になりました。
 特に、広島市段原中学校の生徒さん参加の比治山公園清掃作業です。２年続けて中止となりました。
　生徒さんに奉仕作業の機会を設けられなかったことに悔いが残ります。生徒さんは奉仕作業で色々と体験します。
 見返りを求めない奉仕、心地良い汗、清々しい気分など、気づきがあると思います。次年度はコロナ禍も収束して、マスク着用者はいなくなることを期待しております。

清家　俊一会員（国際奉仕担当長）

 国際奉仕委員会の今年度の方針は、各クラブの国際奉仕活動を支援・６つの重点分野の関連した支援活動・「インターアクト委員会」と連携し韓国第3690地区との交流でしたが、コロナ禍とあって、とても活動するには厳しい年度でし

た。対外的な交流事業が全て中止となり、特に活動をすることなく終わってしまい残念です。次年度は日本でオリンピックという最大級の国際交流が開催されますが、どう対応していくのか参考にし、何かしらの奉仕活動が出来ればと思います。次年度も引き続き同役をお引き受けいたしておりますので、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

大北　茂人会員（青少年奉仕担当長）

この一年間青少年奉仕委員長を拝命さして頂いたのですが、コロナ渦で地区研修会も中止となり青少年奉仕委員長しての活動は何もしていなかったのが現状で、皆様にご迷惑をお掛けしました。

ローターアクト・インターアクトとの結びつきをより強くしていき青少年育成の活動に奉仕するのが主な仕事だと思っています。

4月25日の地区研修・協議会Zoom会議を見て少し学習しました。

次年度も青少年奉仕委員なので、少しはお役に立てる様に努力します。

野村　裕芳会員（がん予防推進担当長）

今年度、がん予防推進担当長を務めさせていただき、青少年に対するがん予防を行う為に、2021年2月17日、崇徳学園にて、広島中央ロータリー・小林正夫様（日本赤十字社中四国ブロック血液センター所長）をお招きし、がん予防講話を開催いたしました。

今年度はコロナ禍により、従来の生徒を集めての形式ではなく、がん予防講話を撮影し、生徒自身に視聴いただくという形式でございました。

従来とは異なる形であったものの、小林様の講話は熱に満ちており、学生に対する若年層からのがん予防知識を始め、感染の割合が高いがんの要因などを説明いただきました。この内容こそ、がん予防講話を行う目的である、青少年に対するがん予防の知識向上に向けたもので、学生にとっては普段学ぶことのできない貴重な情報であったことを感じさせていただきました。

その後、担当教員の先生方交え、来年度の構想、特に崇徳学年は男女共学となり、女子生徒が増えてきていることから、より一層のがん予防講話の目的が発展する期待を感じながら、今年度のお役目を果たさせていただきました。

次年度も同じ役割を務めさせていただく予定でございますので、継続体制として更に連携力を高めて、効果の高い活動ができるよう精進してまいります。

2021年6月24日(木)
最終夜間例会
むさし　土橋店

会長時間

6月24日（木）例会を開催いたしました。

本日は、2020-2021年度の最終夜間例会で、会場は浮田会員の“むさし土橋店”で開催しました。緊急事態宣言は明けましたが、広島県には独自の規制が引かれているため、夜間例会とは名ばかりで午後16時30分開始。勿論、感染防止対策は充分に取り、細心の注意を払っての開催となりました。

通常例会では、青木会長による最後の会長談話がありました。青木会長の談話は素晴らしく毎回楽しみに拝聴させていただきました。青木会長1年間おつかれさまでした。そして、ありがとうございました。

そして、本日は、米山奨学生・羅 ショクンさんをゲストに迎え、奨学金の授与が行われました。

例会の後は懇親会です。今回、むさし様のご厚意で特別な席が設けられました。5月25日に亡くなられた、広島安佐ロータリークラブの仲間長神会員の席です。最初に、岡本次年度副会長の音頭で長神会員を忍んで献杯を行いました。長神会員の突然の訃報に私たちはただただ驚き悲しみました。これからは、きっと私たちを空から見守ってくださると思います。
長神さんありがとうございました。

今年度は、コロナ禍で休会が多く、奉仕活動もほぼできない状態でした。そんな中、例会で皆さんに会えるという、今迄当たり前と思っていたことがとても貴重なことだと改めて考えさせられる1年でもありました。

ワクチンの接種も進んでいるので、もう少しの辛抱である程度は通常の生活が戻って来るは

ずです。ただ、アフターコロナでも以前の生活に完全に戻ることはないと言われています。
　私たちの活動も変化していくでしょう。例会もズームを使って遠方からの参加も可能になります。これを機に、いいものは取り入れて前進して行きたいと考えます。
　2021-2022年度が実り多い1年になりますように。

（広報・会報委員）

献杯

むさし様が、美味しいお料理をご用意して下さいました！

幹事報告

1.例会変更
・広島安芸RC「創立30周年記念式典」
　と　き：7月9日(金)18:30〜※13日(火)を変更
　ところ：ホテルグランヴィア広島４階
　　　　　「悠久の間」
2.お知らせ
・今年度理事委員長退任挨拶文を6月の会報に掲載いたします。ご一読下さい。
・7月分の会費請求は、7/8の臨時総会後に発送いたしますのでご了承下さい。次年度から、請求書の発送が、事前に確認しておりますとおり、郵送の方とメ ール配信の方がおります。お間違えのないようお願いいたします。

出席報告　第996回　5月13日

会員数	21名	出　席　率	90%
出　　席	16名	ご　来　賓	0名
欠　　席	5名	ご　来　客	0名
メーキャップ	2名	ゲ　ス　ト	1名

崇徳学園ＩＡＣ募金

6月分
松岡 與吉・奥芝 隆・岡本 忠文・谷 勝美
合計　4,000円
総合計　61,000円

（撮影：青木信恵様）

　会長時間には毎回心に響く一言と共に達筆なお習字を披露して下さいました。お披露目写真タイムが例会でのルーティーンとなっておりました。
　コロナ禍の中、言葉の選択にはご苦労されたのではと想像いたします。
　青木会長、一年間ありがとうございました。